

# 平成28年第6回函館市教育委員会定例会 会議録

- 1 日 時 平成28年6月3日(水) 午後1時30分
  - 2 場 所 教育委員室
  - 3 出席委員 橋田委員長, 小葉松委員, 佐藤委員, 山本委員
  - 4 欠席委員 須田委員
  - 5 事務局 小林生涯学習部長, 木村学校教育部長, 佐藤生涯学習部次長,  
鶴喰生涯学習部次長, 阿部管理課長, 加賀学校教育課長, 寺本教育指導課長
  - 6 傍聴者 なし
  - 7 付議事項
- 日程第1 報告事項 ・平成28年度教育費補正予算要求の内示結果について
- 日程第2 議案第1号 教職員の懲戒処分の内申に関し, 議決を求めることについて
- 日程第3 議案第2号 函館市学校教育審議会委員の解嘱に関し, 議決を求めることについて
- 議案第3号 函館市学校教育審議会委員の委嘱に関し, 議決を求めることについて
- 日程第4 協議事項 開かれた教育委員会の展開について  
(1) 学力向上について

## ■橋田委員長

- 開会宣言 午後1時30分
- 議事録署名人に, 小葉松委員, 佐藤委員を選任。
- 本日の日程のうち, 日程第1, 報告事項「平成28年度教育費補正予算要求の内示結果について」および日程第2, 議案第1号「教職員の懲戒処分内申に関し, 議決を求めることについて」を「秘密会」としたいがいかがか。
- 異議がないので, 秘密会とさせていただきます。
- それでは, 日程第1, 報告事項「平成28年度教育費補正予算要求の内示結果について」報告を求める。

(秘密会につき, 会議録省略)

- 報告事項はこれで終了する。
- 次に, 日程第2, 議案第1号「教職員の懲戒処分の内申に関し, 議決を求めることについて」を諮る。

(秘密会につき, 会議録省略)

■橋田委員長

- 議案第1号については、原案のとおり可決する。
- 次に、日程第3、議案第2号「函館市学校教育審議会委員の解嘱に関し、議決を求めることについて」および議案第3号「函館市学校教育審議会委員の委嘱に関し、議決を求めることについて」を一括諮る。

■学校教育部長

- 議案第2号および議案第3号の2件について、順次、説明する。
- まず、議案第2号、「函館市学校教育審議会委員の解嘱に関し、議決を求めることについて」であるが、平成29年8月31日まで委嘱している委員25名のうち、照井 千津氏ほか5名について、推薦団体からの申し出により平成28年6月3日をもって解嘱しようとするものである。
- 次に、議案第3号、「函館市学校教育審議会委員の委嘱に関し、議決を求めることについて」であるが、解嘱する委員の後任として、推薦団体からの推薦により、東 敬夫氏ほか5名について、本日より前任者の残任期間である平成29年8月31日まで、委嘱しようとするものである。

■橋田委員長

- 議案第2号および議案第3号について何かあるか。

(意見なし)

- 議案第2号および議案第3号については、原案のとおり可決する。
- 次に、日程第4、協議事項「開かれた教育委員会の展開について」であるが、協議に入る前に事務局から配付資料について説明願う。

■学校教育部長

- 昨年、予算要求時に示した「函館の教育が目指す学校像」の時点修正したものについて説明する。函館市教育委員会の、知・徳・体の調和のとれた、自立したひとづくりを学校とともに進める事業、あるいは、これから進めようとしている事業一覧である。
- 学力向上の事業については、<知>の部分に示している。この<知>の部分について、函館市の学力の状況としては、平成19年度から27年度までの、全国平均正答率との差の推移を見ると、年度により波はあるが、概ね右上がりに推移してきており、小学校・中学校ともに徐々に0に近づいていることがわかる。このことから、全国との差は確実に縮まってきていると言える。
- また、前回話題に出た、函館市の下位層の割合についてだが、平成27年度の「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童生徒の割合」を見てみると、函館市においては、小学校の国語においては全国の割合を下回っているものの、その他の教科については、全国の割合を上回る傾向にあり、本市の傾向としては、全国に比べ、下位層の割合がやや高い傾向があると言える。このことについては、過去3年間を見ても、同じような傾向である。学力と生活習慣の関連に目を向けると、「毎日朝食を食べている子は、食べていない子に比べて学力テストにおける平均正答率が高い」こと、「ゲームをする時間の少ない子はゲームをする時間の長い子よりも正答率が高い」こと、「家で学校の宿題をしっかりと行っている子は正答率が高い」こと、「学校のきまりを守っている子は守っていない子より正答率が高い」など、生活習慣と平均正答率に相関関係があることがわかる。
- このような本市の傾向を受け、各学校では、「家庭学習の手引き」や「学習の約束」な

どを作成し、児童生徒に望ましい生活習慣や学習習慣を身につけさせる取り組みを学校全体で組織的に進めている。また、全ての子どもが意欲をもって理解できる授業の実現に向けて、日々授業改善に取り組んでいるところである。そのような実態を踏まえ、函館市教育委員会として、特に、授業改善にかかわって、今年度から「アクティブ・ラーニング推進事業」において、著名な外部講師による研修会や先行実施校での研究推進等を通して、函館市立学校の教員の指導力向上に取り組んでいるところである。先日行われた研修会の受講者からは、「たいへん興味深いお話しで、自校の校内研修の充実に向け生かしていきたい」、「校内研究の推進、教師の授業力向上に取り入れていきたい」などの声が多く寄せられている。

- また、もう1つの新規事業である「学力向上非常勤講師配置事業」は、教員定数の関係で専門の免許を持っていない教員が授業を受け持つ状況を解消し、より質の高い授業を行うとともに、自分の専門の教科指導に専念できるよう、非常勤講師を配置するものである。具体的には、体育、美術、技術家庭の講師を配置している。しかしながら、特に技術の免許保有者がそもそも少ないので人材確保に苦慮している状況にある。
- このほか、標準学力検査の実施、学力向上プロジェクト推進委員会の取り組み、ICT活用教育推進事業など<知>の部分に係わる事業を通して、本市の子どもたちの学力の底上げを図っていききたいと考えている。

■橋田委員長

- ただいまの説明も踏まえ、何か意見などあるか。

■山本委員

- 全体の傾向としては、本市の子どもたちの学力は伸びてきていると理解している。今までの取り組みが成果を現しつつあるとも理解している。ただ、下位層が全国に比べて多い。そのような子どもたちの学力をどのように上げていくか。生活習慣の面、授業改善の面、色々あると思うが、教員が子どもたちと向き合う時間を作ることを目的に事業を展開していきたいと考えている。

■佐藤委員

- 平成26年度と平成27年度では、中学校の平均正答率にかなりの差があるが、何が原因なのか。

■加賀学校教育課長

- 特別な理由はないと考えているが、学校の意識が変わってきていることは確かである。平成27年度の平均正答率が下がっているように見えるが、その世代が6年生の頃の結果と比較すると、全国との差が明らかに縮まってきている。

■小葉松委員

- 年度によってデータのふけさめが生じるのは当たり前のことなので、本来であれば、統計処理して、統計的に有意な差があるか判断する必要があるのですが、単純にこの年度は高い、この年度は低いという見方は適当ではないと考える。
- また、伸びしろが明らかにある児童生徒、そうではない児童生徒については、現場の教員は分かっていると思う。伸びしろがある児童生徒の意欲を喚起できるか。これが平均点を上げる一番の対策となるのではないかと思う。それは、個別に子どもたちを見て、担任や教科担任が行う必要があると思う。

■橋田委員長

- 先ほど学校現場の意識は変わってきているという話があった。管理職や研修担当がきちんと先進校の状況を把握し、自校へ還元することにより、効果が現れると思う。今年4月にアクティブ・ラーニングの講演会を管理職を対象に行ったが、よい取り組みだったと思う。管理職の意識をどのように変えるか、管理職として学年主任や教科担当に浸透させていくという気構えがない限り、学校は変わらないと思う。
- それで以前から言っているが、年度当初にあのような講演会を市民会館に管理職、一般教員を一堂に集めて開催できないものかと思っている。

■加賀学校教育課長

- 4月に管理職を対象とした研修を行ったが、アクティブ・ラーニングの研修を一般教員対象に複数回開催する予定である。

■学校教育部長

- 年度当初に研修を行ったが、その研修を受けた校長から「これは、ぜひ自校の教員へも受けさせたい」という声が多く聞かれたので、まず、管理職に研修を受けてもらい、必要性等について十分認識していただいたうえで、一般教員への受講が促されているので、理想的な進め方ができていると認識している。

■橋田委員長

- 研修の講師の力量によっても捉え方が違うと思う。これからも本市の教員が意識を変えられるような講師を選定していただきたい。

■佐藤委員

- 学校ごとの結果については、分析しているのか。

■学校教育部長

- 年度によってばらつきはある。教育指導課中心に、経営訪問、要請訪問を通じて、教育委員会が進めている施策の説明、学校が独自に進めている取り組みの状況確認をしているが、大きな差があるかという点、あまりないという現状である。

■橋田委員長

- 校長会でも情報交換を密に行っているようで、どこの学校でどのような取り組みが盛んになされているか各校長はわかっているので、それをどう参考にしながら自校に取り入れるか考えているのではないか。
- 前回から引き続き「学力向上について」協議を行ってきた。今年度の結果が出た際に分析結果を提示していただき、あらためて協議することとし、来月以降は、別のテーマについて協議したいがよろしいか。

(異議なし)

- 次回のテーマについては、事務局と相談しながら「いじめ」「不登校」のいずれかとしていきたいがよろしいか。

(異議なし)

■終了宣言

○ 午後2時19分

議事録署名人 小葉松 洋 子

〃 佐 藤 敬 一

調製者庶務係 若 崎 友 哉